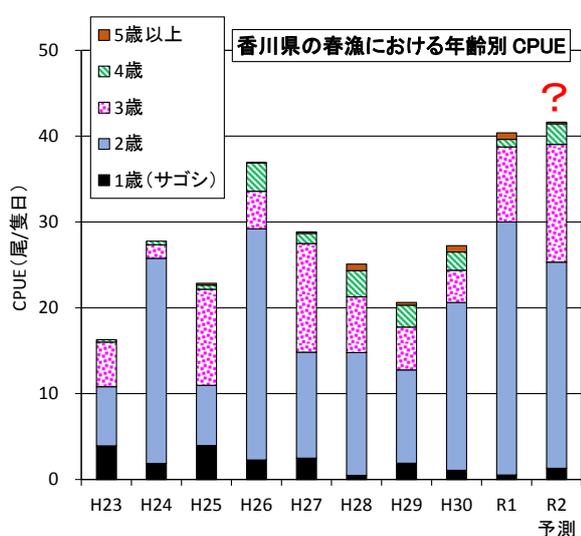


# 令和2年サワラ春漁の漁況予報

令和2年4月17日  
香川県水産試験場

香川県における令和2年のさわら流しさし網（春漁）の漁況を、過去の年齢別漁獲尾数（推定）と国立研究開発法人水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所による資源評価から予測したところ、以下に示すように、前年と同程度の漁獲量になると考えられました。



●R2の年齢別CPUE(1隻日あたり漁獲尾数)はどうなる？  
春漁における漁獲の主体は、2歳魚と3歳魚であり、これの多寡によって漁況が左右される。

**【R2の2歳魚】**

・H30発生群に該当し、瀬戸内海区水産研究所の資源評価において卓越年級とされている。各府県で0歳時の混獲が多く、翌年秋の1歳時の平均サイズが小型であったことから、資源尾数が多い可能性が高い。

・卓越年級群は2歳以降にサワラとして多獲される傾向がある(例: H22発生群、H24発生群)。

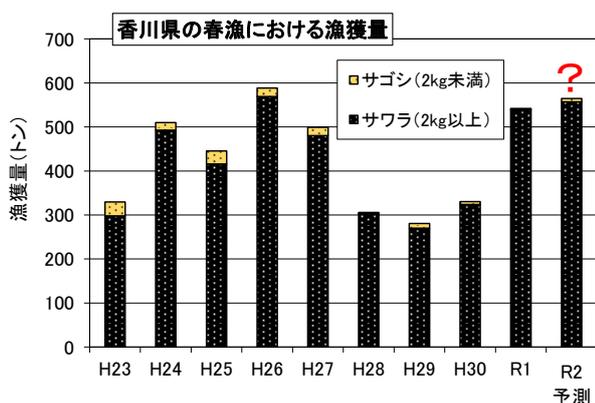
→ R2の2歳魚は多獲される可能性が高い。

**【R2の3歳魚】**

・2歳魚が多獲された翌年は3歳魚としても多獲される傾向がある(例: H25、H27)。

・R1に2歳魚が多獲されている。

→ R2の3歳魚は多獲される可能性が高い。



●R2春漁の漁況は？

2歳魚、3歳魚ともに多い可能性が高い。

→ R1と同程度の漁獲量になると予測される。

●予測は誤差も大きい

・瀬戸内海区水産研究所の資源評価による0歳魚資源尾数は、最近3年程度の発生群についてはかなりの誤差を含む。

・卓越とされているH30発生群についても精度が低く、2歳魚の多獲も確実とは言えない。

・資源の多寡だけでなく、サワラの回遊経路や滞留状況によっても各海域の漁況は大きく変わる(例: R1の春漁は、香川県は豊漁、愛媛県は著しい不漁)。